シリーズ菊池遺産㉛

問い合わせ先　企画振興課　☎0968(25)7250

乙姫神社の鯰様

乙姫とは阿蘇神の妃神を俗に「乙姫さん」と呼ぶことからきたもので、それが社名となっています。神殿の南側に石像があり、女像が体より大きい鯰を両手で強く抱きしめています。鯰は阿蘇神の眷属（神様の従者・配下など）とされ、阿蘇神社系の氏子は、今でも鯰を食べない習慣があり、姫井でも鯰は食べません。「その昔、阿蘇の乙姫がこの地を訪れた時、清水が高く吹き上がる泉を眺めていると、突然川が増水し姫を飲み込んだ。村人が驚き悲しみ、おどおどしていると、大鯰が姫を背に乗せ運んできて姫を降ろすとどこかへ姿を消した」と言う伝説に基づいて造られており、伝説を語り継ぐための大切な石像です。

認定番号第ふるさと H23-15 号
推薦者　姫井区

寒提寺

神社のある地は、合志氏庶流の菩提寺として16世紀前半から中ごろに開山された「寒提寺」の跡といわれ、「かんじゃぢ」と言う地名が残っています。神社は、阿蘇乙ノ宮として勧請されていますが由緒は不詳です。

境内には五輪の塔や合志氏関連の板碑があり、社殿内には神像のほか、石製の獅子額と阿弥陀仏頭が安置されています。

獅子額は「鬼面さん」または「石ガクサン」と呼ばれ、霜よけの神様で、阿蘇の鬼八神話に関係すると思われます。

阿弥陀仏頭は「瘡八さん」といわれ、螺髪を腫物に見立て皮膚病や子どもの疳虫の神と言われています。戦前まで露天にあり胴体もあったそうです。

認定番号第ふるさと H23-16 号
推薦者　寒提寺保存会

人権同和教育シリーズ㊽

地域人権教育指導員　中田武博

障がいのある人もない人も
地域社会の中で同じように
暮らせる社会をめざして

私たちは、障がいのある人が、障がいがない人と同じように、快適な日常生活を送ったり、社会に参加したり、障がいを理由に不利益な取り扱いを受けることがないよう、安心して生き生きと暮らせる地域づくりを進めていく必要があります。

しかし、身近なところで障がいがある人もない人も、同じように暮らすためには、行動や人間関係を阻む壁「バリア」を無くしていくこと（バリアフリー）が大切です。

そのバリアには、道路や建物の段差や階段など、スロープなどの未整備で使いづらいなどの「物理的バリア」。資格習得など、入学や就職が制限される「制度的なバリア」。

盲導犬や介助犬などへの理解不足や字幕放送不足など、情報や文化に接する機会が制限される「文化情報のバリア」。無知や無理解、また無関心によって偏見や差別をされる「意識上のバリア」などがあります。

このようなことから、まずは障がいについて正しく理解することが重要です。なぜなら、障がいは病気や事故と同様に、誰にでも生じえるものだからです。

私は、5年ほど前から病気で歩くことが困難になり、現在車いすを利用しています。障がいがない時は、スポーツなどで活発に動き回っていました。そのころは、道路の段差や階段など全く気になりませんでした。しかし、車いすを使うようになり、日常生活を見渡して見るとさまざまな場所でその不便さが見えてきました。

家の中においては、段差や敷居が多いので、車いすでのスムーズな移動はできません。（現在では、段差をなくすため床張りにし、扉の変更や手すりなどを設置してバリアフリーにしています）

また、一歩外に出ると、階段や数センチの段差の前では、一人ではどうすることもできないこともありました。その解消法として、スロープが設置されている施設が増えてきています。車いすを使用していると、施設に入るためになくてはならないものですが、果たして障がい者のためだけの設備でしょうか？いいえ、高齢者になれば足も腰も弱り、杖などを使っている人においては、階段よりスロープの方が断然安心です。そう考えていくと、妊娠されている人や小さいお子さん連れなど、誰にとっても安心で安全な人にやさしいものなのです。

このように考えてみると、障がいがある人もない人も共に生きるということは、人にやさしい社会をつくるということではないでしょうか。

わいふー番館だより

問い合わせ先　わいふー番館　☎0968（24）6630

写友さくら写真展〝時〟　鶴長広志
期　間　～1月14日㈪㈷
時の流れを感じてください。個々の作品のいいところが出せたらと思っています。ぜひ一度ご覧ください。

喜充・布あそび下げもん作品展　喜充　征矢美津子
期　間　1月16日㈬～27日㈰
※体験講習　1月18日㈮～20日㈰

女の子の幸せな成長を祈る雛祭り、私たちは小さな布で下げもんを作って楽しんでいます。期間中には体験講習もいたしますので、ぜひ遊びにお越しください。

第３回わいふー番館企画展
文教の郷・菊池 ―菊池学と先哲―
期　間　～3月31日㈰
文教菊池の土台を築きあげた15世紀、そして近代文教の祖・渋江紫陽、木下梅里は優れた人材を世に数多く輩出して文教菊池の名は高まりました。今回は近代文教にスポットを当て企画しました。ぜひご来館ください。

※休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）

菊池夢美術館情報

問い合わせ先　菊池夢美術館　☎0968（23）1155

夫婦の手紙・絵手紙展
期　間　～1月20日㈰
口に出しては言えない日ごろの感謝の思いを込めて―。手紙をとおして自分の一番大切な人への思いを伝えます。

退職校長会展
期　間　1月22日㈫～1月27日㈰
菊池郡市の退職および現職の校長先生方の作品展です。日ごろの趣味・特技を生かした文化活動の一端を発表します。

開館時間　午前９時～午後５時30分
※年末年始の開館時間はお問い合わせください。

ふるさと緑の便り　菊池グリーンツーリズム

問い合わせ先　きくちふるさと水源交流館　☎0968(27)0102

水源ばぁばの活動

地域の味を守る「ばぁば」

菊池という土地が育てた食材を使いながら、水源という地域が培った知恵や工夫でおもてなしの料理が生まれる……。

「水源ばぁば」のお母さんたちは、食で地域を元気にする活動を行っています。きくちふるさと水源交流館の加工所で、郷土料理を提供している料理上手のお母さんたちは現在8人。全国から訪ね来る人々をおいしい料理でもてなしています。

「戦後の食糧が十分でなかった時代、私たちの祖母や母が工夫をしながらさまざまな料理を作ってくれました。その工夫が水源ばぁばの料理に生かされているのです。また、そのことを若い世代に伝えるのは大切なことです」とばぁばは話されます。

ばぁばの料理と笑顔に、会いに来ませんか？

2月恒例の「恵方巻」。味がうわさを呼び、この時期「ばぁば」は大忙し（5セット以上の注文で市内限定配達）

韓国発見シリーズ㉙　こんにちは金（キム）です

韓国の軽自動車事情

菊池市役所
国際観光マネージャー
金　相廷さん

韓国のグリーン交通運動機関紙によれば、2010年11月までに韓国で登録された乗用車は約1361万台、その内中型車の割合が55・8㌫と最も多く、大型24・4㌫、小型11・5㌫、軽自動車8・3㌫の順だった。やはり韓国人は大型自動車を好み、小型車を嫌う傾向が明らかになった。韓国の軽自動車は1983年、通産省がエネルギー節減政策の一つとして国民への普及推進計画を立て、1991年に韓国最初の軽自動車として大宇ティコが発表された。ティコは日本のスズキアルトを基盤に開発された車だった。発表当時3万台が販売され、1996年には軽自動車に対する各種の恩恵と石油価格暴騰を背景に、10万3千台が販売されるほど初心者と女性ドライバーに高い人気を呼んだ。しかし軽自動車はその後2003年11月4・3㌫と最悪のシェアを見せる。それで、韓国政府は国民の軽自動車不人気を受け、2003年3月経済政策調停会議で基準を排気量1000cc以下、長さ3・5㍍、幅1・5㍍、高さ2・0㍍以下と改めた。また多様な恩恵を与えた。特別消費税免除、自動車税1cc当たり80ウォン、総合保険料10㌫割引、登録税や取得税免除、地域開発公債免除、高速道路通行料50㌫割引、公営駐車場50㌫割引、地下鉄乗り換え駐車場80㌫割引などだ。このような多くの恩恵を与えても韓国での軽自動車普及率が低い理由をグリーン交通運動は3つ挙げている。一つ目は、軽自動車の車体価格が高い。二つ目は、自動車メーカー自体が軽自動車への意欲が低い。（韓国の軽自動車は2年前まで大宇のマティスしかなかった）三つ目に、公用車での軽自動車排除と大型化だ。それは体面を重視する韓国人の国民性も一つの要因と言える。Wさんは「多くの恩恵があり私自身は満足していても、周りから馬鹿にされたら……気分は良くない。車によって乗っている人の社会的地位や経済力を判断する考え方がなくなれば良いと思う」と苦い気持ちを表した。実用性を大切にする日本人と、見た目を重要視する韓国人とでは、車の選び方にも大きな差があると感じた。